

# 9 Jomon Times

vol. 139

広報 縄文村だより vol.139(9月号)

平成29年9月1日  
●編集・発行●  
奥松島縄文村歴史資料館  
東松島市宮戸字里81-18  
TEL 88-3927 FAX 88-3928



## 縄文村の夏休み

### 01

縄文グルメを食そう!ウニ

#### ウニ好きさん 歓喜! 大人気イベント。



はじめて  
さわったあ〜!



7月9日「縄文グルメを食そう!ウニ」を開催し、過去最多の45名のウニ好きさんが集まりました。

里浜貝塚からもウニの棘や殻が見つかっており、縄文人もウニの美味しさを知っていたことがわかっています(れっきとした縄文体験なのです!)。縄文講座の後、いよいよウニとご対面!動くウニをはじめ触った子ども達は大喜び!

生きているウニに石器を刺すのは勇気がありますが、これも美味しいウニを食すため!思い切ってグサッ!黒いワタもきれいに取ったら、黄色い身がお目見え。丼にきれいに盛っていただきます♪

「毎年この味を楽しみにしている!」「はじめて自分で割って食べたから、ますます美味しい!」など、旬の食材を堪能した様子でした。



23年の長い歴史をもつ「縄文教室」。今年には久々の60人もの大所帯!!1回目の今回は「縄文土器作り」に挑戦しました。



参加者の半数はビギナーさん。「土器とか縄文時代のことを知ってみたいかった」「夏休みの家族の思い出に♪」など理由は様々。家族やお友達同士で楽しく粘土をこねていましたが、段々と真剣な顔つきに…。縄文人に一步近づいた土器作り。次回8月26日は自分たちで起こした火で豪快に野焼きします!

### 02

縄文教室 ①土器作り

#### 縄文人見習い 60人が集まる!



ほくの土器だよ!

### 03

縄文の塩作り ②塩作り

#### 大変だけど… 達成感◎!!

塩が  
びっしり!!



8月6日(日)「縄文の塩作り」を開催。6月に自分で作った製塩土器を使って、海水を煮詰め塩作りに挑戦しました。

薪をくべ火を絶やさないようにする塩作りは、熱さと暑さとの戦い!火を焚き海水を注ぎ足し…4時間ほどかかり塩が完成しました。

「縄文人ってえらい!」「これからはもっと塩を大事にします!!」など縄文の塩作りの大変さが実感できたようでした。

縄文村でのイベントはもちろん、市内外のイベントにも出張しています!

7月16日は「東松島市PR会&肉フェス」へ!縄文土器で煮込んだ「縄文粥」や、縄文人になりきれちゃう「縄文写真館」で縄文村をPR。たくさんの方にお立ち寄りいただきました。

縄文粥、  
いかがですかあ?



樹脂粘土を型に  
ぎゅっと押しして…

三陸自動車道春日PAで毎年開かれる「歴史体験まつり」に今年も出張。「レプリカ作り」と写真館を楽しんでいただきました。

### 04

東松島PR会  
春日PA歴史体験まつり

#### 出張もしてます♪



### 野蒜・東名運河フォーラム

- 奥松島のたからもの -

9月9日(土)開催

野蒜・東名運河など奥松島の魅力を再発見する「見学会」と「フォーラム」を開催します。

- 1.見学会「運河・海岸・陸の松島を歩こう!」10:30~12:00(集合10:00、震災復興伝承館)
- 2.野蒜・東名運河フォーラム 13:30~16:30(13:00開場 野蒜市民センター)

【問】奥松島縄文村歴史資料館

0225-88-3927

## もっと知りタイ! 地域おこし協力隊 〈第5回〉

■問 地域おこし協力隊事務局 復興政策課地域振興班 ☎内線1233

### 阿部ひとみさん(28)

観光・ツアー

#### 人との関わりがやりがい

阿部さんは東日本大震災からの復興を支援する官民連携組織の(一社)東松島みらいとし機構(愛称:HOPE)で、海外からの視察研修を受け入れる際の調整役として働いています。「研修の講師依頼や視察訪問先の手配という隊員活動を通して多くの人と関わりを持つことで、東松島の素晴らしい方々やたくさんの方の魅力について知ることができました」と話します。

仙台市出身の阿部さんは、もともと外国に興味があり、友人からHOPEの国際化事業を紹介されたのが東松島市を知ることになった。その後、協力隊員を募る体験ツアーで初めて東松島市を訪れ、大高森の頂上からの景色や間近で見るブルーインパルスに感動し、「同じ宮城なのにこの景色を知らないなんてもったいない。仙台の友達にもぜひ紹介したい」と思ったそうです。

仙台市内の勤め先を退職し平成28年8月に単身移住、それから1年が経った阿部さんの目には、「東松島市は観光スポットも風光明媚で凄く魅力的。でもそれ以上に、人が優しく、温かいまち」と映っています。

結婚して以前にも増して地域に近くなった今、「震災でさまざまな国から支援を受けたことも聞いています。視察研修で訪れる外国の方に復興や防災のことだけでなく、市民が頑張っている姿や支援への感謝をも伝えられる研修にすることができれば」と、市と海の向こうの世界中の国々との関わりを支えていく決意を述べていました。

